



研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体

CD5モノクローナル抗体(4C7)(ヒストステイナー用)
(動物種:マウス)

包装: 60テスト(12mL) Code: 713251

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性および抗原分布:分子量 67kDa の膜貫通型糖蛋白であるヒト CD5 抗原と特異的に反応する。CD5 抗原は、胸腺細胞、多くの末梢血リンパ球および多くの T 細胞性の白血病やリンパ腫に発現している。B 細胞性の小リンパ球性リンパ腫、マントル細胞リンパ腫および一部の正常 B 細胞に発現している。

■クローン名: 4C7

■抗体のサブクラス: IgG1, κ

■免疫原: CD5抗原の細胞外ドメインに相当するリコンビナントタンパク

■由来: ハイブリドーマの培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・CD5モノクローナル抗体(4C7)(動物種:マウス)。
液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と、0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1 バイアル中に 12mL を含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のヒト CD5 陽性細胞の染色。

3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)として 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたオートクレーブ処理が必要である(裏面参照)。

■参考: 組織の固定状況等により 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の代わりにヒストファイン 抗原賦活化液 pH9 (10 倍濃縮)(Code:415211)またはヒストファイン 抗原賦活化液 pH9 (調製済)(Code:415201)を用いたオートクレーブ処理をすることで、より良好な染色結果が得られる場合がある。

4. 使用方法

- 1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。
- 2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

5. 染色方法の設定

反応時間を 30 分間とする。

6. 貯法

2-8℃保存。

7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染を引き起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	CD5モノクローナル抗体(4C7)
試薬略称(10文字)	CD5-MM
バーコード	CD5-MM
時間(分)	30

8. 主要文献

- (1) Dorfman, D.M. et al : Modern Pathology 10 : 859, 1997
- (2) Izban, K.F. et al : Modern Pathology 11 : 978, 1998

■ 研究用としてのみ使用すること。

■ 切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片(3-4 μm厚)をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化) : オートクレーブ処理
 - ① 緩衝液(下記記載)を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
 - ② バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
 - ③ 120℃、20分間オートクレーブ処理する。
 - ④ 圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
 - ⑤ バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※ オートクレーブ処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
 - ⑥ スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。

・ 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の作り方

A液9mL+B液41mL+精製水450mL

A液 : 0.1M クエン酸水溶液

クエン酸一水和物($C_6H_8O_7 \cdot H_2O$) 2.1g/精製水 100mL

B液 : 0.1M クエン酸ナトリウム水溶液

クエン酸三ナトリウム二水和物($C_6H_5O_7Na_3 \cdot 2H_2O$) 14.7g/精製水 500mL

A液、B液は常温で保存可能である。ここから必要な時に調製する。

■ 参考 : ヒストファイン 抗原賦活化液pH9(Code : 415201またはCode : 415211)を用いたオートクレーブ処理の場合 (おもて面の■参考参照)

・ 抗原賦活化液pH9の作り方

・ Code : 415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。

・ Code : 415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。